

しかはま自然観察会

のらえもん

『人も 自然も みんなともだち !』No.12

代表責任者

古高 利男

☎270-1132

我孫子市湖北台 2-14-7

☎090-7275-9890

2013, 11, 2/3

第12回活動「晩秋の里山体験」

・・・のらえもん自然塾③・・・

- 1, 日 時: 2013年11月2(土)・3(日) 1泊2日 天気晴れ
- 2, 場 所: みなかみ町藤原
- 3, 宿 泊: 民宿関ヶ原
- 4, 交 通: ヨツバ観光バス・サロンカー
- 5, 参加者: 8家族 内訳 大人 12
中学生 3
小学生 13
幼 児 2
合 計 27 スタッフ3 総計30

6, 活動の様子

「自然と正面から向き合っている藤原集落での生活体験」を目的とし「のらえもん自然塾」は、3回目を迎えました。1回目は2月の雪体験、2回目は4月の早春の里山、そして今回の晩秋の里山です。残りの夏の里山体験は、来年度の7月に実施するキャンプを予定しています。

四季折々の里山の姿には、都市生活者にとってはなによりも心を癒してくれるものばかりでした。美しさと驚きと不思議さに満ちたワンダーランドでもありました。次のステップとして、藤原という里地での生活を体験することで、里山との関わりをさらに深めたいと思っています。

晩秋の活動の様子を、私の目でまとめてみました。

○ 粉に水まぜまぜすると固まりに粘土遊びのようなそば打ち

13名が、挑戦しました。「手打ちそば入門」(別紙参照)のレシピにそって作業がすすみます。そば粉に水を少し入れてかき混ぜていくと、だんだん固まってきて、手につかなくなるから不思議です。こうなると、粘土遊びのようなものです。力一杯好きなようにもむだけです。お店の指導者がいろいろ教えてくれるので、気楽なものです。いよいよめん棒で伸ばしていきます。私たちがやると円状に伸びていくのですが、指導員の女性がめん棒を使うと、なんと四角になっていくのですからビックリです。まるで魔法の手のようにでした。いよいよ生地を切る番です。それぞれ自分の手で切ってみました。細くなるより太く切れてしまいます。とにかく切り終えて、調理場に行くと、待つこと「5分!」名前を呼ばれました!!一口食べて「おいしい!」の言葉です。40分もかけて自分の手でつくったかがありました。

○ オキの耳トマの耳まで見えているのらえもん家族晩秋の旅

1319日の天神平です。今日は360度の視界です。10周年で来たとき

は、ガスっていて何も見えませんでした。きょうは最高のリベンジです。みんなで天神平駅から歩き、湿地→高取山（1449m）まで登りました。水上駅や遠く尾瀬の方までみえました。ふり返ると、岩場の谷川岳がで〜んと目に飛び込んできました。よく見ると、耳のようなピークが並んでいました。向かって、右がオキの耳（1977m）左がトマの耳（1963m）で、谷川岳は双耳峰の山なのです。その谷川岳をバックに、みんなで記念写真を撮りました。（今年の田植えのときに登った筑波山も男体山・女体山の二つのピークがあるので、双耳峰の山の一つですね。）

○ 藤原の今と昔を語り継ぐ林親男の熱き思いは
民宿関ヶ原に着きました。犬の「空」ちゃんが待っていてくれました。子どもたちにじゃれつき、大歓迎です。斉藤美友香さんの挨拶で、夕食が始まりました。お腹がすいていたので、おいしくたくさん食べました。赤飯も炊いてくれていました。なんでも、熊野神社の「おくまん様」のお祭りだということでした。（どのような意味なのか、確かめるのを忘れてしまいました）今でも、このように赤飯を炊いてお祝いの気持ちをあらわすという習慣を受け継いでいることに、藤原が里地里山の面影を残しているように思えました。7時から学習会です。第一部は、藤原の歴史をお聞きするために、林親男様をお呼びしました。「林様は、みなかみ町の議員も務めた方で、この藤原集落の生き字引のような方だ」と、森林塾青水塾長の清水様が紹介してくれました。そして、林様のお話が始まりました。熱き思いを心底からお話くださり、あっという間に時間が過ぎてしまいました。「まだまだ話したいことがたくさんある」ということですので、次回の機会にこのような場を持ちたいと考えています。お話の内容は、保護者の工藤順子様がまとめてくれました。（後ろに掲載）

○ 夜8時大型バスで上ノ原星はなくても闇の体験
第二部は、星の観察です。春日さんの太陽系についての講義の後、急いでバスに乗り込みました。今度は、上ノ原のフィールドに出て、星座の観察です。講師は、前回とても詳しく説明していただいた工藤様です。バスは着きました。里山のまっただ中なので、電灯の光はひとつだにありません。真っ暗な中、見上げると、やっぱり真っ暗でした。あいにく曇っているようで、星の光は全く届かないようです。残念！回りの人たちの顔もわからないほどの暗闇でした。その闇から、こわ〜いものが出てきそうな雰囲気でしたね。みんな無事で、よかった！

○ 慶永寺（おうえいじ）縛られ龍がいるという背後のブナは朝日を受けて
早朝の散歩は6時からです。もう、梅北さんが待っていました。早い！まずは近くの慶永寺を訪ねました。ここには縛られた龍が飾ってあるという。昔、夜中に寺を抜け出し、雨呼山に登り大暴れした。そのために、大水が出て田畑が埋まってしまった。困った村人は、寺で眠っている龍を縛り上げてしまった。
そんな言い伝えの残る由緒あるお寺の裏には、24代までの住職のお墓が並んでいました。

○ 山肌に沿い用水路流れゆく古民家殿田潤わしながら

慶永寺の住職のお墓のすぐそばを、一本の用水路が流れていました。寺より少し高い位置にありました。探検心が働いて、この流れについて行ってみることにしました。右側は山肌、左側は名倉川の溪谷です。川の白い流れに映し出される紅葉は、光のコントラストにも演出されて柔らかい暖かさを醸しているようでした。「この散歩はもうけもの！」と、ゆっくり味わいながら歩いていくと、のらえもんが関わっている古民家が見えてきました。急に視界が開けて、正直ホットしました。古民家から見下ろす位置にある田んぼに、この1本の用水路が黙々と水を運んでいるのでした。田と人々の命を潤しているのです。ここの棚田は一畝田と呼ばれ、4軒しかありません。また、昔ここの米を殿様に献上したことから、殿田とも呼ばれているとのこと。そして、いよいよメイン活動が始まります。

○ 上ノ原ふりかえ見れば谷川の山山山が連なっている

第一部は、清水様と古高の二つのグループに分かれての自然散策です。上ノ原のススキ草原をぬけ、ミズナラ・カエデの森に入っていきます。ドングリやキノコをみながら落ち葉を踏みしめ歩いていると、森にとけ込んで行くような気持ちが出てきました。そうしていると、ははその泉に着きます。名倉沢の源流である十郎太沢です。「ははその泉」の立て札は、熊にかじられてよく読めなくなっていました。ヤマブドウを味わいながら、防火帯に下りました。視界が開けると、谷川岳・白毛門・朝日岳をはじめ白い化粧をした山々が連なっていました。山が幾重にも重なって、その先に白い山々があるのでした。

○ スケッチし一句詠んで落款おす上ノ原の秋を感じつつ

第二部は、スケッチです。のらえもん初めての試みです。色紙を一枚ずつ持ち、柔らかい鉛筆と色鉛筆を使って、ここから見える山ばかりの風景のどこかを切り取って、自分だけの絵にするのです。出来上がると、今度は一句詠み、それをススキの茎を使ったペンで書いていきます。最後に、名前を書き。その下に落款を赤鉛筆で書いて、完成です。みんな山の静寂に負けないぐらい集中して完成させました。とても味わいのある作品がたくさん出来ました。

○ ドングリの笛がひびくよ上ノ原

第三部は、ドングリで笛を作りました。殻の固いマテバシイのドングリを使いました。おへそのところに穴を開け、中味を全部出してしまいます。そして口元に持ってきて吹くと「ピ〜ィ」と鳴りました。全員で山の神様に向かって合奏(?)しました。山の神様、聞いてくれたかな？

○ 晩秋の奈良俣ダムはにぎわいて若き家族に日は注ぎいる

カレーライスの昼食の後、空ちゃんにサヨウナラをして、バスは奈良俣ダムに向かいました。晩秋の奈良俣ダムは、これまでで一番水位が低いのでした。「ダムに水を貯めてはイケナイ」という人がいましたが……。ダムの堰堤ではたくさんの家族連れが、過ぎゆく秋を楽しんでいました。若い家族は幼い子を中心に、笑い声がいつまでも続いていました。遠くには、尾瀬の名峰の一つである至仏山が日に照らされていました。

○ 葉留日野の山荘の湯に身を沈め10周年の時を思い出す

のらえもんの10周年記念特別企画「山村の力を知る・・・恵み・風景・人情・・・」を、ここの山荘で行いました。2011年6月18/19日でした。45名がこの温泉を利用したのです。湯に浸かっていると、3年前のことが浮かんできました。「とてもステキな活動だったな!」と。それは、参加者の快い協力があったからでした。

思い出の残る山荘ですが、事情があり、今はバイブルホームというプロテスタント教会に引き継がれています。

○ 渋滞の高速道のバスの中うしろ座席は宴のさなか

温泉に入り、気持ちよくバスに乗り込みました。あとは、帰るだけです。午後3時30分、湯ノ小屋温泉を後にしました。晴れの特異日で文化の日、当然渋滞は予想していました。流れに任せることにしました。子どもたちはDVDの鑑賞、大人たちは後ろの座席に集まり楽しいおしゃべりです。残りの飲み物とわずかなつまみで、笑い声が絶えません。1時間ごとにサービスエリアにはいりました。そんな訳で、鹿浜については午後10時になっていました。

みなさん、お疲れ様でした! ご協力ありがとうございました!

林 親男様のお話

* 日 時：2013年11月2 (土) 午後7:00~7:30

* 場 所：民宿関ヶ原2階大広間

* 参加者：30名

* まとめ：工藤 順子

藤原の歴史について、元みなかみ町町議の林 親男さんにお話していただきました。

今の「みなかみ町」になる前は「藤原村」だった。明治時代には150戸あった。

昭和の初め頃までは、猟師が17人いた。カモシカやテンなどの猟が盛んだった。300頭もつかまえたという熊獲り名人もいた。熊の胆嚢は薬に使われるため特に価値があり、富山・新潟・福島からも買いに来た人たちがいた。

藤原は気温・水温が低くていい米ができなかった。黒米・もち米を作ったり、田んぼ用の用水でぬるめる工夫をしていた。

昭和30年代までは、国の政策で定期的に木を切って材木にした。木材は炭や薪にして売った。しかし、昭和30年代の輸入自由化によって外国産の安価な材木が増え、全国的に材木の価値がなくなってしまった。

隣組との付き合いは、とても重要だった。みんなで助け合って暮らしてきた。その付き合いがないと、生活していけないほどだった。組の戸数は、必ず偶数になるようにしてきた。奇数だと、話しがまとまりにくくなるからだった。横着しないように、什長(じっちょう)は、毎年代わっていた。昭和22年のカスリーン台風によって、群馬県は大きな損害を受けた。そ

れを受けて、利根川流域にできた最初のダムが藤原ダム（昭和32年）。ダムができることによって、160戸近くの家が水没。水没する家・しない家で補償にギャップがあり、藤原分断の原因になった（現在は分断もなくなった）。

藤原は、昭和37年までは冬にバスが来なかった。私（林様）は、東京まで運転免許を取りに行った。陳情の末、冬にもバスが通ることになり、私（林様）がバス運転手第1号となった。

ここは田舎だと言われるが、利根川源流である。藤原に住んでいることに、誇りをもっている。

・・・親と子の、生き生き感想・・・

○山のぼりはたのしかったけど、つかれた。

山のぼり つかれたけれど たのしいよ

鹿浜西小1年

* 1日目に登った山はけいしゃが急だった。夜ご飯と朝ご飯は量が多くておいしかった。今日の温泉で、バニラの匂いのシャンプーがあって、女子はめっちゃはまった。

星かんさつ 見えるのは雲 星ないよ

鹿浜中1年

* いつも秋空を見ながら、紅葉を想像します。今日はやっと見ることができました。とてもうれしいです。藤原の自然と日々深まる秋に感動して、とても楽しい二日間でした。

天高く 色とりどり山 上ノ原の秋

母

* 自然の中、紅葉の中、普段とれない親子の交流を持てました。林さんの藤原の歴史も興味あるものでした。上ノ原の写生も、楽しかった。

もみじ原 ドングリ笛が なりひびく

上ノ原 ボッチの中を 通り抜け

父

○やまぶどう、おいしかった。

やまぶどう おいしかったね たべたいな

上沼田小2年

* 山ぶどう・天然きのこなど、いろいろ初めて見ました。勉強になりました。自然の風景を見て、絵を描いて、感想を書いて、最後に署名しました。みんなの絵を見たところ、上手な人もいるし、下手な人もいるし、皆まじめに書いて、感動しました。

関ヶ原 ヒトバントマル しあわせだ!

母

○スケジュールは余裕があってよかったと思います。藤原の紅葉も見事でした。もっと藤原集落や上ノ原など、周辺の散策や活動が多くても良いかと思います。

第七中1年

父

* 「のらえもん」で、4月下旬にみなかみを訪れた時には、3日間で冬・春・夏を体験し、今回は秋を満喫することができました。天神平・民宿までの道のり・上ノ原・奈良侯ダムと・・・どこもとても見事な紅（黄）葉で、感激の連続でした。2日目の昼食後、13時30分民宿発でしたが、準備がすんでから出発までの間、皆さん余裕があったようなので、13時出発でもよかったのでは？と思いました。帰りの高速道路が大渋滞だったので。

錦秋の 草原に立つ 茅ぼっち

太古から 見守る溶岩 上ノ原

紅葉を 写す鏡や 奈良侯胡

母

○くうちゃんとあそんでたのしかった。おえかきがたのしかった。おそば、おいしかった。

おやまがたのしかった。ほしがきれいだった。

年長

* そばづくりのまぜるところが、かたくてむずかしかったけど、切るときに太いめん

や細いめんがあって、おいしかったです。星観察では、あまりみえなかった。

秋の星 きたいしてたのに 残念だ！ 上沼田小4年

* 谷川岳頂上を望む景色は、紅葉がとてもきれいでした。上ノ原の散策は、たくさんの木の実を見つけて自然を満喫できました。

頂上で 大声だして ごあいさつ
上ノ原 自然たっぷり すごいんだ

母

○くうちゃんといっぱいはして、たのしかったです。

やまのぼり したにすすきが おちてるよ 鹿浜小1年

* 紅葉狩りをたんのうした二日間でした。とても魅力的なエリアでのハイキング（谷川岳）や初めてのそば打ち体験。子どもたちも大喜びでした。藤原での林さんのお話も、大変興味深かったです。水源の里ならではの歴史が刻まれているし、地元の役割を下流への思いも合わせて考えているし、愛しているんだなと感じました。紗楽（さら、3才）がもう少し歩いてくれたらうれしかったんだけどな～。春と秋を体験しましたので、次は夏と冬の体験もしてみたいと思いました。早朝の散歩、とっても気持ち良かったですよ！

秋深き 里の小径で 深呼吸

父

○山のぼり、ふるたか先生まよって、たのしかった。

はいくはね めんどくさくて つまんない
山のぼり ふるたか先生 まようね

上沼田小2年

* もっと、クウ（犬のこと）とあそびたかったです。

山のぼり ふるたか先生 道まよう

上沼田小6年

* 2回目の、みなかみです。直人は「くうにあいたい！から行く」と即答でした。みなかみに行く目的がずれていましたが、「行けばどうにかなるだろう～」と思いながら参加しました。藤原の歴史、上ノ原のスケッチは散々でした。ご飯も……。それでも1年前に比べれば成長したなあとと思います。中々、自然とふれ合う事がないので、私もいやされます。子供も、楽しそうだったので、良かったです。いつも、盛りだくさんののらえもん、また参加したいです。

くうに会い 幸せ気分 うれしいな

藤原の 秋もきれいだ 紅葉だ

悲しいな どんぐり笛の 音出ない

母

○山のぼりをして、そんなにつかれなかったけど、ごはんをいっぱい食べてよかった。

山のぼり そんなにつかれなくて よかったよ 鹿浜西小5年

* のらえもん一日目は、ロープウエーにのって山に登りました。すごくおもしろかったです。夜に、じもとの人からお話を聞いて、とても貴重な体験ができました。星を見にいったけど、くもっていて、見れなくてごんねんでした。二日目は、ちょっと山にのぼりました。きれいなけしきがみれました。おんせんにも入れて、うれしかったです。

山のぼり がんがんのぼって つかれたよ
ロープウエー きれいなけしき みれたよね

おんせんは ゆでたまごのね においする

鹿浜中1年

* 今回は紅葉の山々が大変きれいで、良かったです。一度訪れた所も、季節が変わると、見え方が違いますね。

秋の色 日に日にいりどり ましていく

母

○温泉がB I B L Eの湯だとは、牧師さんらしき人に聞いたら、ここは教会だとのこと。ガラス張り、内外がよく見えました。とても良く温まる湯でした。つつい長湯になりました。

ダテガンバ 赤くなったり 見られたり